



昭和大学藤が丘病院

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院

病院だより

2017年9・10月

第318号

病院だより第318号 (2017年9・10月号)

発行者

昭和大学藤が丘病院

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院

発行責任者

藤が丘病院長 高橋 寛

編集責任者

広報委員長 原田 浩史

〒227-8501

横浜市青葉区藤が丘 1-30

TEL

045-971-1151

藤が丘病院心臓血管外科診療科長就任にあたって

藤が丘病院心臓血管外科 教授 田中 弘之

このたび、本年8月に昭和大学藤が丘病院心臓血管外科診療科長を拝命いたしました。

私は昭和58年、昭和大学を卒業後、故石井教授、後任の高場教授のもと昭和大学病院外科において消化器、小児、脳、呼吸器外科を研修させていただき、その後胸部外科を専攻、2年と少しの米国留学で、成人、小児の開心術、心臓移植、人工心臓の勉強をさせていただきました。そして、平成6年より故堀医長の藤が丘病院 胸部心臓血管外科のもとで研鑽を積んでまいりました。



当科での手術は冠動脈バイパスに代表される虚血性心疾患、弁膜症、あるいは大動脈瘤、解離の大動脈疾患および閉塞性動脈硬化症に対する末梢血管バイパス術です。

冠動脈バイパス術は人工心肺装置を使用しない off pump CABG を施行してまいりました。また、弁膜症では、当初、リュウマチ性疾患が多かったのですが、最近は大動脈硬化性の大動脈弁狭窄症、変性疾患の僧帽弁閉鎖不全症が多くなり、後者には、人工弁置換をしない、自己弁での形成術を施行しております。大動脈疾患では人工血管置換術に加え、最近ではステントグラフト内挿術が選択できるようになり、その低侵襲化により大動脈疾患の手術数が増加しております。

藤が丘病院の特徴として、各科の連携が極めて良く、おかげで当科は大変効率よく仕事をさせていただいております。循環器内科はもとより、透析患者さんの多い当院では、腎臓内科、糖尿病合併も多く、糖尿病・代謝・内分泌内科、救急疾患では救命センターの、ステントグラフトでは放射線科の助けを借りて治療にあっております。今後もさらに、この地域での医療の充実のためにも、学生、レジデント教育のためにも症例数を増やしていきたいと思っております。病院の皆様には、今後とも一層のご協力ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

昭和大学藤が丘病院・リハビリテーション病院 平成29年度地域合同防災訓練のお知らせ

日時：平成29年11月19日(日) 9:00~12:00

内容：対策本部機能訓練、トリアージ訓練、
病棟避難訓練、地域住民向け講習会等

七転び八起き、時々息抜き

初期臨床研修医 秦 万里奈

朝晩の冷え込みに秋の深まりを感じるとともに、月日の経つ早さに驚いています。4月からこの藤が丘病院で医師として働き始め、月日は浅いですが日々学ぶことで溢れている充実した研修生活を送っています。個々の症状に対し診断をつけ、吟味しながら適切な治療を行うこと、基本的な手技を取得すること、医師同士、医師以外の様々な職種と連携をとること、そして患者さん一人一人と向き合い、耳を傾けること。一見何も特別なことはないようですが、実際は机上の勉強とは異なり、奥行きのある現場ではとまどうことが沢山ありました。しかし、どの診療科でも親しみやすく教育的な先生方が指導して下さい、語り合える同期に支えられたおかげで今の自分があることに心から感謝しています。日常で先生と話している患者さんの表情がふっと和らぐ場面を見たとき、改めて将来は、専門領域は勿論のこと一人の人間としても成長していきたいと感じました。今後も初心を忘れず精進していきたいと思えます。



入職後半年を経過して

藤が丘病院8階東病棟 看護師 石嶋 めぐみ

入職してからあっという間に半年が過ぎてしまいましたが、日々体調管理をしっかりと頑張っています。私は看護学生の時に8階東病棟に実習で来させていただき、「この看護師さん達のようにになりたい。」と思いました。そして8階東病棟に配属されることになり、とても嬉しく、入職当初より先輩看護師のもとで患者さんのケアに入らせていただき、日々楽しく働いています。7月頃より徐々に独り立ちを目標に患者さんの受け持ちも始まり、上手くできないことへの不安で悩むこともありました。そんな中でもプリセプターの先輩や係長をはじめ病棟の先輩方からの温かく優しいアドバイスや、共に毎日を乗り越える5人の同期に支えられながらここまで続けてこられました。また毎日関わる患者さんやご家族の方から学ばせていただくことも多くあります。これからもチームの一員として、患者さんご家族の心の支えとなれる、頼られる看護師を目指し頑張っていきたいと思えます。



入職して半年、今思うこと

藤が丘病院 臨床工学技士 黒田 上総

早いもので入職して半年が経ちました。この半年間は新しい環境で初めてのことが多く、あっという間に過ぎ去ったように感じています。私は今年の3月まで他病院で働いておりましたが、臨床工学技士としての知識や技術をさらに高め磨きたいと強く思い、転職を決意しました。昭和大学の附属病院へ入職した理由としては、他病院と比較しても臨床工学技士の業務領域が広く、多くの臨床経験ができること、そして研究や学会活動にも力を入れているところに魅力を感じたからです。

私は現在、心臓カテーテル治療等の循環器業務を中心に血液浄化関連の業務等に従事しております。また前の職場では経験することができなかった業務の研修等もさせていただき、臨床工学室の所属長を始め諸先輩方は、各業務を一から懇切丁寧に教育して下さい、自身の知識の未熟さを痛感しながらも、新たな知識や技術を日々習得しているところです。また諸先輩方には知識や技術だけでなく、医療人としての心構えも日頃から教えていただいております。

私たち臨床工学技士は、生命維持装置と呼ばれる医療機器を通し患者さんと接することが多い職種です。しかし、私達が見るのは目の前にある機器だけでなく、その先には患者さんの命があるということを決して忘れてはなりません。私は生命維持装置と患者さんの命は一体であるということを日々感じ、一医療人としても、少しずつではありますが成長できているのではないかと実感しています。私自身まだまだ未熟ではありますが、今後も臨床工学技士としての知識や技術の向上への努力を怠らぬよう、日々精進してまいります。



部署紹介

リハビリテーション病院2階眼科外来 リハビリテーション病院手術室

リハビリテーション病院外来 係長 矢吹 充広

リハビリテーション病院2階眼科外来の1日外来患者数は、平均65名です。地域の医療機関からの紹介患者を受け入れ、白内障、緑内障発作、網膜剥離、涙道閉塞、視神経炎等紹介患者の診療・治療を行っています。その他、緑内障の専門外来も設けています。また病状が安定した後は、地域の医療機関に逆紹介し連携を図っています。

外来手術は、レーザー照射、テノン下注射、麦粒腫・散粒腫、鼻涙管閉塞症などを外来処置室で行っています。また、眼科の専門的な検査は視能訓練士が実施しています。



看護スタッフは、看護師7名、看護助手2名で1階外来も兼務しています。視能訓練士は6名、医療事務は2名となっています。患者さんやご家族の皆さんに満足して頂ける外来診療を目指し、医師、看護師、視能訓練士と多職種連携したチーム医療に取り組んでおります。

リハビリテーション病院手術室は眼科の手術を行っています。昨年度の年間手術件数は3,003件でした。主な手術として、白内障手術1,835件、硝子体注射812件、網膜・硝子体手術113件、その他翼状片や涙嚢鼻腔吻合、外眼部の手術を行っています。今年度の平均件数は232件/月となっています。



白内障手術は手術時間が10～15分と短いため、患者さんの手術室への入退出を円滑に実施するために、病棟と綿

入職半年を振り返って

藤が丘病院 医事課入院係 斉藤 あずさ

4月の新人研修を経て、5月から入院係に配属となりました。配属されてからはいろいろなことを覚えるのに必死で、半年が経ったという事実には驚きを隠せません。

配属から5か月が経過し慣れてきた部分もありますが、まだまだ新しく学ぶことも多く先生方や先輩、病棟クラークさんなど多くの人に助けをいただきながら日々の業務を行っています。現在は4階西病棟の患者さんの会計、保険請求業務では血液内科を担当させていただいております。日々新しいことを学ぶことができるが増えていく喜びを感じる一方でミスをしてしまったり、うまくいかないと落ち込んだり、楽しいことばかりではないですが、同期と励まし合いながら先輩の背中を追いかけています。指導して下さる先輩方のように人か



密に連絡を取り連携を図っています。

スタッフは、看護師 5 名、眼科常勤医師 6 名です。眼科手術は局所麻酔で行われることが多いため、手術や麻酔について不安を抱えている患者さんが多くいらっしゃいます。手術前から患者さんとの関わりの中でその気持ちに寄り添い、安全に安心できる手術を日々提供できるよう、医師、看護師と連携したチーム医療に取り組んでまいります。

部署紹介

24 時間、全診療科の緊急患者を受け入れます！

藤が丘病院 EIU 師長 横尾 志おり

EIU (Emergency & Intensive Care Unit/救急・集中治療病棟) は、平成 25 年 4 月にオープンし、早いもので 5 年が経ちました。藤が丘病院の組織的な取り組みとして、1 次 2 次 3 次救急を連携し、救急医療センターとしての機能を十分発揮するため、ER と救命センターが統合してできた部署です。ER から初期治療を受けた患者さんは、重症度も高くハイケアが必要です。EIU は全診療科に対応し、多職種の方々も多く出入りする病棟です。毎朝、入院センター推進部と院内ベットコントロール・退院調整カンファレンスを実施し、一般病棟と連携しながら夜間の病床を確保できるよう取り組んでいます。救急車で搬送されてくる急性疾患・交通外傷等の超急性期の患者さんが一般病棟へ移り、回復され退院時にお会いできることがあります。入院当初には想像できなかった御本人・御家族の笑顔に、とても感動します。これからも、患者さんの気持ちに寄り添いながら、スムーズな緊急入院の受け入れが出来るよう邁進していきます。



九都県市合同防災訓練に参加

平成 29 年 9 月 1 日(金)に行われた第 39 回九都県市合同防災訓練に昭和大学藤が丘病院 DMAT が参加しました。今回の訓練は、小田原市沖を震源地とする最大震度 7 の大地震が発生したとの想定の下、消防、警察、自衛隊、在日米軍、医療部隊など 100 を超える機関が連携し、医療救護活動を実施するものでした。その中で、藤が丘病院 DMAT は、DMAT 調整本部(厚木基地内)の運営を担いました。調整本部では、通信機器を駆使し、各地で活動している現場の需要と供給を把握し、的確に資器材の援助や患者搬

送のための移動手段を現場に手配するなど非常に重要な役割を果たしました。

(九都県市:埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県・横浜市・川崎市・千葉市・さいたま市・相模原市の 9 ヶ所を指します。)



(藤が丘病院管理課 小泉 春樹)

藤が丘病院・リハビリ病院 合同ワークショップ開催

平成 29 年 9 月 1 日(金)~2 日(土)の 2 日間にわたりオンワード総合研究所(横浜市都筑区)にて、藤が丘病院・藤が丘リハビリテーション病院合同ワークショップが開催されました。各グループは医師・看護師・薬剤師・診療放射線技師・臨床検査技師・臨床工学技士・事務員と多職種で構成され、終始和やかな雰囲気の中、部門横断的な討議が行われました。また、1 日目終了後には懇親会が行われ、普段はなかなか話すことのない職種や、病院幹部と直接意見交換を行う良い機会となりました。2 日目には、1 日目で検討した「問題点の解決策」に対するスケジュールについて、グループ討議が行われ、9 月 25 日(月)にはワークショップ報告会が行われ、各グループの代表が発表を行いました。



(藤が丘病院管理課 山口 詩織)

レイトサマーコンサート開催

平成 29 年 9 月 22 日(金)、16 時 30 分より藤が丘病院 1 階初診受付前ロビーにてレイトサマーコンサートが開催されました。演奏していただいたのは、主に青葉区、緑区周辺で演奏活動をしているアマチュアの女性サクソカルテット「リーブス サクソフォン カルテット」の方々です。当日は、バトン、ソプラノ、テナー、アルトの各パートの音色を紹介して頂きな

から『坂本九メドレー』など8曲を披露して頂きました。ロビーを埋め尽くした100人を超える聴衆は、サクスの美しい澄んだ音色に魅了され、癒しの時間を共有されました。



(藤が丘病院管理課 高橋 良治)

残念ながら2位で市大会への出場は果たせませんでした。この2か月間で得た隊員らの努力の賜物が本番成果として現れ、職種の垣根を越えて絆を深めることが出来たことは大きな財産になりました。

(藤が丘病院管理課 小林 美貴)

藤が丘病院緩和ケア研修会開催

平成29年9月30日(土)～10月1日(日)に藤が丘病院B棟6階講堂にて「藤が丘病院緩和ケア研修会」が開催されました。緩和ケア研修会はがん診療に携わる全ての医療従事者が基本的な緩和ケアを理解し、知識と技術を習得することを目的としています。当院においては3回目の開催となり、企画責任者の市川度教授(藤が丘病院腫瘍内科・緩和医療科)が中心となり、昭和大学病院緩和医療科 樋口比登実教授、横浜市北部病院緩和医療科 岡本健一郎教授をはじめ多数の方々にもご指導とご協力をいただきました。今回の研修会は医師6名、コメディカル12名が参加し、職種・病院の垣根を越えて積極的に意見交換がなされました。参加者からは今後の業務に活かしていきたいとの感想が多くあがり、有意義な研修となりました。



(藤が丘病院管理課 石塚 美雪)

自衛消防隊消防操法技術訓練会に参加

平成29年9月25日(月)、青葉自動車学校にて青葉区自衛消防隊消防操法技術訓練会が開催され、藤が丘病院は屋内消火栓操法(女性の部)に出場致しました。隊員は看護師長をはじめとして、臨床工学室、看護部、薬局と多職種で構成されました。屋内消火栓を使用し迅速かつ正確に放水し消火するという目標の下、8月から9月までの間青葉消防署の方々のご指導を受けて訓練を重ねました。結果は



診療統計 2017年8月・9月

| | 藤が丘病院 | | リハビリテーション病院 | |
|-------|--------------------|--------------------|-----------------|-----------------|
| | 2017年8月 | 2017年9月 | 2017年8月 | 2017年9月 |
| 外来患者数 | 28,917人 (1,112.2人) | 28,342人 (1,180.9人) | 4,163人 (160.1人) | 3,863人 (161.0人) |
| 入院患者数 | 16,240人 (523.9人) | 15,298人 (510.0人) | 5,477人 (176.7人) | 5,041人 (168.0人) |
| 紹介率 | 72.9% | 78.9% | 64.6% | 62.2% |
| 逆紹介率 | 54.4% | 58.5% | 79.7% | 67.3% |

《広報委員会委員》

| | | | | | |
|--------|--------|-------|-------|-------|-------|
| 原田 浩史 | 池田 裕一 | 佐々木春明 | 市川 度 | 小岩 文彦 | 川手 信行 |
| 芳賀 ひろみ | 辻本 さなえ | 猪股 里美 | 岩城 馨 | 長沼美代子 | 下田 遥菜 |
| 岡部 圭吾 | 大塚 凌 | 高橋 良治 | (順不同) | | |